

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101397
法人名	医療法人 松岡会
事業所名	佐古グループホーム
所在地	徳島県徳島市佐古6番町12番11 (電話) 088-611-3630

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 11 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤:9人、非常勤:12人、常勤換算:1階 7.7人 2階 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道・光熱費: 15,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	260 円	昼食 520 円
	夕食	520 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 12 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低 74 歳	最高	98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 成美会 鈴江病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐古グループホームは交通量の多い幹線道路から通りを1つ入った住宅街の中にある。建物の裏を流れる川沿いは、利用者や近隣の方達の散歩コースとなっている。リハビリやレクリエーション、趣味活動などで体や頭を活性化させるようなケアに努めている。町内の清掃活動や季節の行事などに参加して地域との連携を図っている。また、医療連携体制をとり、日常的な健康管理を行うなど、利用者や家族の安心した生活に繋がる取り組みもなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題「家族等への報告」については、定期的及び随時に利用者個々の状態を家族等に報告している。「食事を楽しむことのできる支援」については、おやつを利用者と職員が一緒に作るなど、共に楽しんでいる。「災害対策」についてはマニュアルを作成し、運営推進会議で協力を呼びかけ、地域住民の協力を得ながら避難訓練を定期的に行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者、職員共に評価の意義を理解し、全員で話し合っ自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、町内会会長、民生委員、地区更正保護女性会会長、地域包括支援センター職員などで構成し、議題に応じて消防署職員などが参加している。会議では評価への取り組みや行事予定の報告、防災についての意見交換などを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に職員から声をかけるなど、相談や意見を出してもらいやすい雰囲気をつくっている。出された要望等は運営者を含めて話し合い、改善に取り組むなど運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板を通した情報交換や行事への参加、散歩時のゴミ拾いなどを行っている。また地域の方達が事業所の催しや救急救命の研修、避難訓練に参加してくれるなど連携が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『目配り・気配り・心配り・笑顔で挨拶』を理念とし、地域の中での安心した生活の継続を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板を通じた情報交換や行事への参加、散歩時のゴミ拾いなどを行っている。また地域の方達が事業所の催しや救急救命の研修、避難訓練に参加してくれるなど連携が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員共に評価の意義を理解し、全員で話し合って自己評価を作成している。前回の外部評価での課題については全職員で協議し、具体的な方針を立てて改善に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、町内会会長、民生委員、地区更正保護女性会会長、地域包括支援センター職員などで構成し、議題に応じて消防署職員などが参加している。会議では評価への取り組みや行事予定の報告、防災についての意見交換などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	提出書類などは窓口で直接手渡しして、相談したり助言を得るなどして連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に介護記録や写真を見てもらったり、健康状態に変化があるときにはすぐに連絡するなどしている。金銭は少額を預かり、毎月出納記録を家族に報告して確認してもらっている。また年に4回、グループホーム便りを発行して家族に届けるとともに、地域の方達にも見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に職員から声をかけるなど、相談や意見を出してもらいやすい雰囲気をつくっている。出された要望等は運営者を含めて話し合い、改善に取り組むなど運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、馴染みの関係が築けている。やむを得ない離職などの場合は、管理者やリーダー的職員がフォローし、利用者への影響を最小限に抑えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて研修に参加し、内容は全職員で共有できる仕組みをつくっている。また職員の資格取得を勧め、受験者の勤務時間などにも考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して相互評価事業に参加するなどして同業者と交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には見学などを通して事業所の雰囲気を体感してもらっている。入居後は家族に頻繁に来訪してもらえるようお願いするなど、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に洗濯物たたみなどの家事を行い、共に暮らす一員としての役割を持った生活を支援し、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から利用者の意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、家族に尋ねたり職員間で話し合うなどして利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の希望、職員の気づきなどを会議において話し合い、介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。また状態に変化があった場合にはその都度カンファレンスを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、利用者や家族の要望により通院支援などを行っている。また一時帰宅の送迎、墓参りへ付き添うなど柔軟に支援している。短期利用型共同生活介護の体制も整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診時には家族と相談して職員が通院介助を行ったり、往診してもらうなどして適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、家族や関係者を交えて十分に話し合っている。また医師から状態についての説明がある度に家族に報告して相談し、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者や家族の視点に立ち、一人ひとりの人格を尊重した支援について職員間で話し合っている。居室入り口に暖簾をかけるなどしてプライバシーに配慮している。また記録や書類等は整理して適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリに参加してもらったり居室でのんびり過ごしてもらったりなど、利用者一人ひとりの気分や体調にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事の盛りつけや後片づけを利用者と一緒に行い、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせた入浴を支援している。入浴する順番は公平になるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	クラブ活動やレクリエーション、八十八ヶ所巡りを模したリハビリ、家事など利用者一人ひとりに合った楽しみごとや役割などに参加できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には日常的に近隣へ散歩に出かけている。また四季折々の花見や阿波踊り見物、彼岸の札所参り、外食などを楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、理念の「目配り」を実践して開放感のある自由で明るいケアを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導訓練は消防署の指導のもと年4回実施し、運営推進会議のメンバーや近所の方達の参加も得られている。また災害対策マニュアルを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の水分・食事摂取量を記録し、栄養状態を管理している。献立は関連施設の管理栄養士が栄養バランスに配慮して作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の植物を飾り付けている。壁には八十八ヶ所巡りを模したリハビリに使う阿弥陀様の絵が掛けられている。トイレには目印をつけ、利用者が迷わないよう工夫している。換気や温度調節にも配慮し、掃除も行き届いて清潔感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスや寝具、テレビなど利用者が使い慣れた品物を持ち込み、安心して過ごせるよう工夫している。また居室入り口には好みの暖簾をかけるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		